

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400043		
法人名	株式会社 三笠商会		
事業所名	グループホームゆばら(こもれび)		
所在地	岡山県真庭市下湯原125-1		
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiigyosyoCd=3393400043-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiigyosyoCd=3393400043-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 11 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と利用者としてではなく同じ立場に立っている人として接し、共に時間を共有することを心がけている。その象徴と言えるレクリエーションでは、職員個々の得意とするところを取り入れご利用者と共に活動し共に楽しんでいる。また、SNSの活用により遠方にいる家族や地域の方々にもその様子を発信できている。  
 コロナ禍もあり近年は開催できていないが、ホーム主催の夏祭りは回を重ねるごとに来場者も増え、近所の方だけではなく地域の方々にも喜ばれ広く認識されてきていた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長は、「人に優しくする」と信念を持ち、前向きに職員を巻き込みながらチャレンジしている。コロナ禍だから何もしないのではなく、この期に少しでも個々の利用者にも外出をさせてあげたいと、過去の住み慣れた地を訪れ、安心感を高めれるドライブを継続している。さらに、楽しみを増やす一つとして、入浴剤を敢えて元から作り、入浴も喜べる工夫もしている。だから、職員も「楽しい」「仕事をやりたい」と語ってくれ、施設長も「職員の関係は良い」と断言していた。助け合う姿も多くみられ、コロナ禍の安全を礎に従来と変わらず、さらに進化させているレクリエーションも職員のアイデアで、人によって様々だが、人の顔を覗かない自由な意見が言える環境が、職員の自分流を形成していた。目配りや視野を広げているのも職員の優しさに繋がり、利用者の元気な笑顔を臨む将来を見据えていた施設だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・日々の介護の中で問題が生じたときや、困ったときは理念にかえり、介護にあたるようにしている。	理念は事務所に掲示している。各階の申し送り時に話し、職員に浸透させている。【小さなことほどていねいに！当たり前のことほど、真剣に！】の精神で、利用者の自立に向けて日々の介護を実践し、職員も自然とベクトル合わせをしている。	さらに経営理念を各月ごとに細分化して、もっと職員が自然に行動を伴うように浸透させてみてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・施設長が地域の中で生活し、また、役など引き受けているので、地域の情報が迅速に入り、行事などの参加が容易にできている。	施設長が地元住民ということで、自治会の会議にも出席している。積極的な地域清掃への参加や消防団にも加入し、地域との縁は深くなっている。コロナ前は、夏祭りを開催し、子供達との交流もあったが、現在は、中学生が考えてくれたレクを職員が教えて頂き、利用者実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・職員も経験が豊富になり、それぞれの地区において相談に乗ったり、集会で話などしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議が2か月に1回あることによって、利用者状況や職員状況、行事などを再確認することができる。(令和2年2月以降は開催できていない)	利用者・職員の現状やヒヤリハットの報告をし、爪切り⇒やすりの使用など改善できることを会議にて模索し実践に繋げている。利用者の「感謝します」の言葉に職員のやる気が上がった。現在は、身体拘束委員会も兼ねていたが、書面では十分に充実できていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に市の職員が出席して、お互いの情報交換を行っている。真庭市グループホーム連絡会議においても情報を共有し連携を取り合っていて、何でも話せる関係は継続できている。	市町村との窓口は、施設長が行っていて、何でも話しができる関係が形成されている。必要と思うことがあれば、施設長が伺うことも多々ある。また真庭市GH内の計画作成者と管理者が集まり、コロナについてのアンケートを実施したりして、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の禁止については、研修に参加したり、ホーム内においても研修を行い、必要な時は家族から承諾書を取っている。	身体拘束はしない。動画を見て不適切なケアについて考えたり、事例をもとにグループワークをしたりして、職員の意欲を高めている。スピーチロックにならないよう気をつけて、日々の介護に活かしている。また、グレーゾーンについて考え、事例を交えて研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止については、施設内で研修を行ったり、入浴時や更衣時に擦り傷やかすり傷がないか、確認し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者が施設内研修や会議時に他の職員に知らせている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約締結前に、契約、解約、重要事項について説明を行い、契約後も疑問が生じた場合、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時、家族に日頃の生活の様子をお話するとともにホームに対する要望をお聞きしプランに反映させている。必要な場合は電話の対応もしている。	面会に来る家族は、感謝の言葉を述べて頂ける。電話は頻繁にし、「水分を取らせてください」など気軽に告げられ、なんでも言える関係となっている。元気な様子の写真や手紙を書いて送ったら家族に喜ばれたので、時々ラインで写真を送ると喜んで頂けたことから、ラインも活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日の申し送り時や、会議において気軽に施設長に提案や要望をしている。	施設長には、仕事の話は直接言いに来てくれる。雑談時に意見が出やすい。職員同士の仲がいいと断言するくらいの自信。すこぶる良い。年齢差に関係なく話が盛り上がる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・経験、資格等を給与基準とし、資格内容によって手当を付けている。又、未資格者には資格取得援助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者は職員一人一人の体調の変化や精神的変化に心を配り、必要に応じて話し合いを行っている。又、各研修に出席したり施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・施設長が地域ケア会議に参加することにより、情報が幅広く入り、他施設との交流も頻繁に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に何度か訪問したり、見学して頂き、又担当のケアマネからの情報提供を依頼するなどして信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の方に安心していただけるように、こまめに連絡を取り支援においてわからないことや困ったことが生じた場合早急に解決し、安心していただくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族、担当ケアマネからこれまでの生活の様子を詳しく聞いて、新しい生活にスムーズに慣れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の性格を理解し、尊重し相手の立場に立って介護者同士情報を共有し、ともに安心して楽しく生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族に利用者の状況を詳しく伝えると同時に、ホームの方針も丁寧に伝え理解していただきよりよい生活ができるよう援助に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人が訪れやすい環境を整え、又ドライブなどでは本人の行きたいところへ行くようにしている。	アクリル板を使用し、廊下で面会を実施した。利用者に「どこに行きたい？」と聞いて、利用者の要望を叶えている。蒜山に行ったり、自分の家がある勝山まで行ったりしているので、利用者の口数が増え、笑顔になって帰ってくる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係ができて、楽しく会話している人もいるが、一人である人は孤独にならないように介護者が側に寄りそうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了するのは、病院での治療になることが多いが、契約終了後も家族の希望があれば、病院での様子など伝えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・色々な活動をするによって、利用者それぞれの楽しいこと、嫌いなことを把握することができるようになったので、職員間で情報を共有しそれぞれに合わせた支援ができるよう努めたい。	何をしたいと聞いても答えてくれないので、職員と一緒に食事、工作、手芸などをしながら、楽しいこと得意なことを探している。習字をしたときに達筆な字をみて、「習字の先生の補助をしていた」と言われ、そこから会話が盛り上がった。不平等の平等「あなたが1番だよ」の精神で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・サービスを提供するにあたって、今までの生活歴や生活環境を十分理解したうえで援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個々の介護記録(排泄、食事量、バイタルチェック等)を熟知し一人一人が安心して生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の申し送り時とモニタリングの会議で各種サービスや支援が円滑にできているか、新たなニーズが発生していないかを継続的に行っている。	計画は暫定プランを入居時に作成し、半年に1回見直しをしている。何かあればその都度変更している。モニタリングも半年に1回。ドクターの意見は、ケアプランに反映させている。入れ歯の人がミキサー食にという案が出たが、家族の要望により、ご飯と味噌汁以外をミキサー食にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録や受診時の医療記録、面会時の家族との会話記録などの情報を共有し、個人の目標達成のために生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・職員一人一人柔軟な気持ちで、臨機応変に対応できるよう、職員同士のコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・施設長が地元に住んでいるのと、地元で色々な役を受けているので、情報が迅速に入ることから買い物や美容院、行事などにもスムーズに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月に1回定期受診を行い、緊急時の場合は休日、夜間を問わず受診ができるよう協力病院との体制が整っている。	施設前の湯原温泉病院が協力医。入所前のかかりつけ医はすべて協力医に転医されていて、他科は家族が受診しに連れて行っている。訪問看護は週1回は来て頂き、病院へは職員が連れて行っている。	病院受診なので、施設受診と違い、何でも言える関係がなかなか難しいため、もう少し関係を深められるように築いてみてはどうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週一度訪問看護を取り入れている。又、医師との相談においても訪問看護師が便宜を図ってくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・日頃から協力病院とは信頼関係を築いているので入退院時は家族と病院とのパイプ役を果たしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期についての研修に行ったりして、体制も整っているが、病院で終末を迎えられることが多い。	重度化や看取りについては、入所時に家族に説明をして、同意を交わしている。ドクターの指示のもと、何かあれば、入院する運びがほとんどで、入院中も職員が見舞いや洗濯物を取りに行き、ホームで洗濯をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルに沿って、急変時や事故の時は対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・施設長が地元であり、又施設長の親族が近くに住んでいたりと、運営委員さんも近くなので協力体制は整っている。	年2回、昼夜想定で実施。施設長が消防団に加入していることで、連携がとりやすい。備蓄は日頃食べているお菓子を活用している。連絡網は、ラインを活用し一斉送信できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員も利用者も変わることが少ないので、馴れ合いになりがちなので、お互いに注意しあって誇りやプライバシーを傷つけないように気を付けている。	呼称は、苗字に「さん」付け。同姓の場合は、下の名前です「さん」付けで呼んでいる。ホームのフェイスブックに載せる写真使用については、家族から「肖像権使用同意書」を頂いて、個人情報保護に配慮している。居室に入るときは必ずノックをして言葉掛けをしてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・レク等も参加したくないときは居室で読書したり、眠い人は遅い朝食を取ったりなど柔軟に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員が業務を優先しようとするときは、何が大切かを話し、利用者中心の生活になるよう注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出時や誕生日にはおしゃれをして(ネイル、メイクなど)楽しい気持ちになっていただくよう配慮している。又、日々の更衣においても職員が勝手に決めることなく、利用者の希望を取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・レクでのおやつ作りや、昼食のハンバーグや焼きそばを一緒に作るなどして楽しく食事ができるように心がけている。又、誕生日には外食なども取り入れている。	ピーマンの肉詰め、餃子、お好み、手打ちうどん、そば団子を作り、夏には、スイカ割りを実施し、秋には、スイートポテト、プリンを作り、季節を味わって頂いている。職員は同じものを食べているが、食事場所は別で、パンを出したら喜んでくれた利用者には、朝パン[バターロール]を出している。	食事にも五感を取り入れる工夫をして頂くためにも、業者や栄養士などに時には参加して頂いて観察から新しいチャレンジを試みてはどうでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者の病状や咀嚼力に合わせて、刻み食、ミキサー食、大盛、小盛、おかゆなどができるだけのことをして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食前の嚥下体操、義歯の消毒、又、歯磨きにおいては個々にあった歯ブラシやスポンジ等を私用して清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄を基本とし、個々の排泄パターンを把握し、紙パンツや、紙おしめが外せるよう努めている。	チェック表を活用した結果、紙パンツから布パンツに変わった事例もあり、財布に優しいケアを心掛けている。失敗時の言葉かけは、本人は気づいていない場合は、放置している。夜間のみ必要な方のみPTイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の排便リズムを把握し、薬に頼らず、食事や飲み物で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴が嫌いな人もいますので、入浴の心地よさを解ってもらうために、一緒に入浴剤を作ったり、夕方入浴していただくなどの努力をしている。又、季節ごとに菖蒲湯、ゆず湯なども取り入れている。	週2～3回提供している。夕方に「お風呂いこか」と誘導したら、入ってくれたことがあった。お湯は付け足し。季節感を味わうために、菖蒲湯、ゆず湯を提供したり、重曹やアロマを使って、職員が入浴剤を作ったりしている。職員が書いた手書きのポスターも飾っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・いつでも好きなときに休んでいただいているが、夜間の暖房や、照明は個々に合わせて気持ちよく休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・くすりの変更があったときは情報を職員間で共有し、必要な場合は家族にも伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日々の活動や、介護の中で個々の状態を把握してできることを(洗濯干し、掃除、食事の手伝いなど)それぞれにあったことを楽しみながらしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・行事の中に外出を取り入れているが、個々の希望に合わせて行きたいところにドライブしているが、時には家族にお願いして一緒に出掛けてもらっている(実家など)	コロナ禍でもドライブには行っている。最近、蒜山まで紅葉を見に行った。近所のやんちゃき広場でのアイスクリームを食する写真には、ひだまりの美女たち[利用者]が笑顔を振りまいていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本にお金はホームで預かっているが、要望があれば買い物などの付き添いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	・家族や友人に電話をされることはある。手紙のやりとりは現在のところない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者にとって心地よい場所であるか、職員間で話し合っ、食堂の座る位置やソファの場所など決めている。又、壁画についても職員の趣味になっていないか気を付けている。	リビングでは、元氣よく体操をして利用者がイキイキと過ごしていた。家族が作ったパッチワークのリースを壁に飾っていて、施設内のオシャレ感が漂っていた。各行事の写真をまとめて掲載し、立ち止まって見入ってしまって、懐かしく行事を振り返っていた。そんなリビングで過ごす利用者が、時を忘れて心を通わしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールの片隅に長いすを置いたり、テラスで利用者同士会話ができるよう椅子を置くなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所時に家で使っていた物を持ってきてもらうようにしている。面会時に家族の写真や鉢植えなど持ってきておられる。	敬老会の寄せ書きや写真を飾っていて、いつでも職員、家族と触れ合う時を感じることができる。孫の笑顔の写真を見ることで、自然と涙が出て、あやしていた時代を思い浮かべ、いつでも家族や職員の愛を感じられる居室となっている。施設から送られた感謝状が利用者の励みになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自分の居室、トイレ、洗面所の場所や、手洗いの手順が解るように張り紙をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400043		
法人名	株式会社 三笠商会		
事業所名	グループホームゆばら(ひだまり)		
所在地	岡山県真庭市下湯原125-1		
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393400043-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393400043-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 11 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と利用者としてではなく同じ立場に立っている人として接し、共に時間を共有することを心がけている。その象徴と言えるレクリエーションでは、職員個々の得意とするを取り入れご利用者と共に活動し共に楽しんでいる。また、SNSの活用により遠方にいる家族や地域の方々にもその様子を発信できている。  
 コロナ禍もあり近年は開催できていないが、ホーム主催の夏祭りは回を重ねるごとに来場者も増え、近所の方だけではなく地域の方々にも喜ばれ広く認識されてきていた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長は、「人に優しくする」と信念を持ち、前向きに職員を巻き込みながらチャレンジしている。コロナ禍だから何もしないのではなく、この期に少しでも個々の利用者にも外出をさせてあげたいと、過去の住み慣れた地を訪れ、安心感を高めれるドライブを継続している。さらに、楽しみを増やす一つとして、入浴剤を敢えて元から作り、入浴も喜べる工夫もしている。だから、職員も「楽しい」「仕事をやりたい」と語ってくれ、施設長も「職員の関係は良い」と断言していた。助け合う姿も多くみられ、コロナ禍の安全を礎に従来と変わらず、さらに進化させているレクリエーションも職員のアイデアで、人によって様々だが、人の顔を覗かない自由な意見が言える環境が、職員の自分流を形成していた。目配りや視野を広げているのも職員の優しさに繋がり、利用者の元気な笑顔を見据えていた施設だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・日々の介護の中で問題が生じたときや、困ったときは理念にかえり、介護にあたるようにしている。	理念は事務所に掲示している。各階の申し送り時に話し、職員に浸透させている。【小さなことほどていねいに！当たり前のことほど、真剣に！】の精神で、利用者の自立に向けて日々の介護を実践し、職員も自然とベクトル合わせをしている。	さらに経営理念を各月ごとに細分化して、もっと職員が自然に行動を伴うように浸透させてみてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・施設長が地域の中で生活し、また、役など引き受けているので、地域の情報が迅速に入り、行事などの参加が容易にできている。	施設長が地元住民ということで、自治会の会議にも出席している。積極的な地域清掃への参加や消防団にも加入し、地域との縁は深くなっている。コロナ前は、夏祭りを開催し、子供達との交流もあったが、現在は、中学生が考えてくれたレクを職員が教えて頂き、利用者実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・職員も経験が豊富になり、それぞれの地区において相談に乗ったり、集会で話などしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議が2か月に1回あることによって、利用者状況や職員状況、行事などを再確認することができる。(令和2年2月以降は開催できていない)	利用者・職員の現状やヒヤリハットの報告をし、爪切り⇒やすりの使用など改善できることを会議にて模索し実践に繋げている。利用者の「感謝します」の言葉に職員のやる気が上がった。現在は、身体拘束委員会も兼ねていたが、書面では十分に充実できていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に市の職員が出席して、お互いの情報交換を行っている。真庭市グループホーム連絡会議においても情報を共有し連携を取り合っていて、何でも話せる関係は継続できている。	市町村との窓口は、施設長が行っていて、何でも話しができる関係が形成されている。必要と思うことがあれば、施設長が伺うことも多々ある。また真庭市GH内の計画作成者と管理者が集まり、コロナについてのアンケートを実施したりして、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の禁止については、研修に参加したり、ホーム内においても研修を行い、必要な時は家族から承諾書を取っている。	身体拘束はしない。動画を見て不適切なケアについて考えたり、事例をもとにグループワークをしたりして、職員の意欲を高めている。スピーチロックにならないよう気をつけて、日々の介護に活かしている。また、グレーゾーンについて考え、事例を交えて研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止については、施設内で研修を行ったり、入浴時や更衣時に擦り傷やかすり傷がないか、確認し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者が施設内研修や会議時に他の職員に知らせている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約締結前に、契約、解約、重要事項について説明を行い、契約後も疑問が生じた場合、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時、家族に日頃の生活の様子をお話するとともにホームに対する要望をお聞きしプランに反映させている。必要な場合は電話の対応もしている。	面会に来る家族は、感謝の言葉を述べて頂ける。電話は頻繁にし、「水分を取らせてください」など気軽に告げられ、なんでも言える関係となっている。元気な様子の写真や手紙を書いて送ったら家族に喜ばれたので、時々ラインで写真を送ると喜んで頂けたことから、ラインも活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日の申し送り時や、会議において気軽に施設長に提案や要望をしている。	施設長には、仕事の話は直接言いに来てくれる。雑談時に意見が出やすい。職員同士の仲がいいと断言するくらいの自信。すこぶる良い。年齢差に関係なく話が盛り上がる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・経験、資格等を給与基準とし、資格内容によって手当を付けている。又、未資格者には資格取得援助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者は職員一人一人の体調の変化や精神的変化に心を配り、必要に応じて話し合いを行っている。又、各研修に出席したり施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・施設長が地域ケア会議に参加することにより、情報が幅広く入り、他施設との交流も頻繁に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に何度か訪問したり、見学して頂き、又担当のケアマネからの情報提供を依頼するなどして信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の方に安心していただけるように、こまめに連絡を取り支援においてわからないことや困ったことが生じた場合早急に解決し、安心していただくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族、担当ケアマネからこれまでの生活の様子を詳しく聞いて、新しい生活にスムーズに慣れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の性格を理解し、尊重し相手の立場に立って介護者同士情報を共有し、ともに安心して楽しく生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族に利用者の状況を詳しく伝えると同時に、ホームの方針も丁寧に伝え理解していただきよりよい生活ができるよう援助に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人が訪れやすい環境を整え、又ドライブなどでは本人の行きたいところへ行くようにしている。	アクリル板を使用し、廊下で面会を実施した。利用者に「どこに行きたい？」と聞いて、利用者の要望を叶えている。蒜山に行ったり、自分の家がある勝山まで行ったりしているので、利用者の口数が増え、笑顔になって帰ってくる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係ができて、楽しく会話している人もいるが、一人である人は孤独にならないように介護者が側に寄りそうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了するのは、病院での治療になることが多いが、契約終了後も家族の希望があれば、病院での様子など伝えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・色々な活動をすることによって、利用者それぞれの楽しいこと、嫌いなことを把握することができるようになったので、職員間で情報を共有しそれぞれに合わせた支援ができるよう努めたい。	何をしたいと聞いても答えてくれないので、職員と一緒に食事、工作、手芸などをしながら、楽しいこと得意なことを探している。習字をしたときに達筆な字をみて、「習字の先生の補助をしていた」と言われ、そこから会話が盛り上がった。不平等の平等「あなたが1番だよ」の精神で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・サービスを提供するにあたって、今までの生活歴や生活環境を十分理解したうえで援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個々の介護記録(排泄、食事量、バイタルチェック等)を熟知し一人一人が安心して生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の申し送り時とモニタリングの会議で各種サービスや支援が円滑にできているか、新たなニーズが発生していないかを継続的に行っている。	計画は暫定プランを入居時に作成し、半年に1回見直しをしている。何かあればその都度変更している。モニタリングも半年に1回。ドクターの意見は、ケアプランに反映させている。入れ歯の人がミキサー食にという案が出たが、家族の要望により、ご飯と味噌汁以外をミキサー食にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録や受診時の医療記録、面会時の家族との会話記録などの情報を共有し、個人の目標達成のために生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・職員一人一人柔軟な気持ちで、臨機応変に対応できるよう、職員同士のコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・施設長が地元に住んでいるのと、地元で色々な役を受けているので、情報が迅速に入ることから買い物や美容院、行事などにもスムーズに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月に1回定期受診を行い、緊急時の場合は休日、夜間を問わず受診ができるよう協力病院との体制が整っている。	施設前の湯原温泉病院が協力医。入所前のかかりつけ医はすべて協力医に転医されていて、他科は家族が受診しに連れて行っている。訪問看護は週1回は来て頂き、病院へは職員が連れて行っている。	病院受診なので、施設受診と違い、何でも言える関係がなかなか難しいため、もう少し関係を深められるように築いてみてはどうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週一度訪問看護を取り入れている。又、医師との相談においても訪問看護師が便宜を図ってくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・日頃から協力病院とは信頼関係を築いているので入退院時は家族と病院とのパイプ役を果たしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期についての研修に行ったりして、体制も整っているが、病院で終末を迎えられることが多い。	重度化や看取りについては、入所時に家族に説明をして、同意を交わしている。ドクターの指示のもと、何かあれば、入院する運びがほとんどで、入院中も職員が見舞いや洗濯物を取りに行き、ホームで洗濯をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルに沿って、急変時や事故の時は対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・施設長が地元であり、又施設長の親族が近くに住んでいたりと、運営委員さんも近くなので協力体制は整っている。	年2回、昼夜想定で実施。施設長が消防団に加入していることで、連携がとりやすい。備蓄は日頃食べているお菓子を活用している。連絡網は、ラインを活用し一斉送信できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員も利用者も変わることが少ないので、馴れ合いになりがちなので、お互いに注意しあって誇りやプライバシーを傷つけないように気を付けている。	呼称は、苗字に「さん」付け。同姓の場合は、下の名前で「さん」付けで呼んでいる。ホームのフェイスブックに載せる写真使用については、家族から「肖像権使用同意書」を頂いて、個人情報保護に配慮している。居室に入るときは必ずノックをして言葉掛けをしてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・レク等も参加したくないときは居室で読書したり、眠い人は遅い朝食を取ったりなど柔軟に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員が業務を優先しようとするときは、何が大切かを話し、利用者中心の生活になるよう注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出時や誕生日にはおしゃれをして(ネイル、メイクなど)楽しい気持ちになっていただくよう配慮している。又、日々の更衣においても職員が勝手に決めることなく、利用者の希望を取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・レクでのおやつ作りや、昼食のハンバーグや焼きそばを一緒に作るなどして楽しく食事ができるよう心がけている。又、誕生日には外食なども取り入れている。	ピーマンの肉詰め、餃子、お好み、手打ちうどん、そば団子を作り、夏には、スイカ割りを実施し、秋には、スイートポテト、プリンを作り、季節を味わって頂いている。職員は同じものを食べているが、食事場所は別で、パンを出したら喜んでくれた利用者には、朝パン[バターロール]を出している。	食事にも五感を取り入れる工夫をして頂くためにも、業者や栄養士などに時には参加して頂いて観察から新しいチャレンジを試みてはどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者の病状や咀嚼力に合わせて、刻み食、ミキサー食、大盛、小盛、おかゆなどのできるだけのことをして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食前の嚥下体操、義歯の消毒、又、歯磨きにおいては個々にあった歯ブラシやスポンジ等を私用して清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄を基本とし、個々の排泄パターンを把握し、紙パンツや、紙おしめが外せるよう努めている。	チェック表を活用した結果、紙パンツから布パンツに変わった事例もあり、財布に優しいケアを心掛けている。失敗時の言葉かけは、本人は気づいていない場合は、放置している。夜間のみ必要な方のみPTイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の排便リズムを把握し、薬に頼らず、食事や飲み物で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴が嫌いな人もいますので、入浴の心地よさを解ってもらうために、一緒に入浴剤を作ったり、夕方入浴していただくなどの努力をしている。又、季節ごとに菖蒲湯、ゆず湯なども取り入れている。	週2～3回提供している。夕方に「お風呂いこか」と誘導したら、入ってくれたことがあった。お湯は付け足し。季節感を味わうために、菖蒲湯、ゆず湯を提供したり、重曹やアロマを使って、職員が入浴剤を作ったりしている。職員が書いた手書きのポスターも飾っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・いつでも好きなときに休んでいただいているが、夜間の暖房や、照明は個々に合わせて気持ちよく休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・くすりの変更があったときは情報を職員間で共有し、必要な場合は家族にも伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日々の活動や、介護の中で個々の状態を把握してできることを(洗濯干し、掃除、食事の手伝いなど)それぞれにあったことを楽しみながらしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・行事の中に外出を取り入れているが、個々の希望に合わせて行きたいところにドライブしているが、時には家族にお願いして一緒に出掛けてもらっている(実家など)	コロナ禍でもドライブには行っている。最近、蒜山まで紅葉を見に行った。近所のやんちゃき広場でのアイスクリームを食する写真には、ひだまりの美女たち[利用者]が笑顔を振りまいていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本にお金はホームで預かっているが、要望があれば買い物などの付き添いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	・家族や友人に電話をされることはある。手紙のやりとりは現在のところない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者にとって心地よい場所であるか、職員間で話し合っ、食堂の座る位置やソファの場所など決めている。又、壁画についても職員の趣味になっていないか気を付けている。	リビングでは、元氣よく体操をして利用者がイキイキと過ごしていた。家族が作ったパッチワークのリースを壁に飾っていて、施設内のオシャレ感が漂っていた。各行事の写真をまとめて掲載し、立ち止まって見入ってしまって、懐かしく行事を振り返っていた。そんなリビングで過ごす利用者が、時を忘れて心を通わしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールの片隅に長いすを置いたり、テラスで利用者同士会話ができるよう椅子を置くなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所時に家で使っていた物を持ってきてもらうようにしている。面会時に家族の写真や鉢植えなど持ってきておられる。	敬老会の寄せ書きや写真を飾っていて、いつでも職員、家族と触れ合う時を感じることができる。孫の笑顔の写真を見ることで、自然と涙が出て、あやしていた時代を思い浮かべ、いつでも家族や職員の愛を感じられる居室となっている。施設から送られた感謝状が利用者の励みになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自分の居室、トイレ、洗面所の場所や、手洗いの手順が解るように張り紙をしている。		